

教育長賞

堺市立 深井中学校 三年

谷 埜 芽 生

犯罪と非行の三つの原因

「事の全てに原因はある」。この言葉は私が生きていくうえで大切
にしている言葉の一つです。意味は出来事の一つ一つには全て何
らかの原因があり、また、原因がなければその出来事は起こらな
いということです。私がこの言葉を大切に行っている理由は、何事
も「なぜこの出来事が起こったのか」「何をすればこの出来事が起
こるのか」と考えることが大切だと思うからです。物事の原因を
考えることは、その物事を応用するためにも必要になる力です。
また、何をすればいいのかを考えることで将来を見据えて行動で
きるようになります。

この言葉と「社会を明るくする運動」との関係はとても密接な
ものだとは考えます。「社会を明るくする運動」「犯罪・非行の
ない地域社会づくり」と聞いて、まずは犯罪や非行が起こる原因
を考えることが大切だと考えました。そこで私なりに原因を考え
てみることにしました。原因は大きく分けて三つあります。

一つ目は、教育や身の周りのことです。私自身も教育を受ける
身として感じたものがあります。まず、非行防止教室などが挙げ

られます。「非行防止教室は原因ではないのではないか」そう考え
る方もいるかもしれません。私も行うこと自体は必要だと思いま
す。ですが、その内容に原因があると思います。生徒のなかには
非行防止教室の内容を全く聞いていない人も多くいます。それは、
非行防止という内容を身近に感じられていないからです。「自分は
非行をしないから関係ない」このように考える人がほとんどです。
なので、自分がしてしまいそうな身近な非行や犯罪を中心に話を
進めることで、自分自身にも関係のあることだと気づくことがで
きると思います。

二つ目は、将来を担う子どもたちをもつ親についてです。私は
まだ子どもで親の立場に立ったことはないですが、客観的な視点
で得た考えはあります。日本は世界の中でも先進している国です。
つまり、インターネットの環境が整備されており、SNSが普及
していることでもあります。ここ数年で飛躍的な成長をとげた日
本の通信技術。今では小学生でも自由にSNSへの投稿ができる
社会になりました。これは多種多様な人々が交流できるだけでな

く、小学生などの正しく、十分な知識を得ていない人が投稿できることでもあります。また、現在の世代の親はSNSに馴染みのある世代になっていることから、自分の子どもに使わせることに抵抗が無くなりつつあると感じました。それは、SNSの危険を親から教わらなくなっているということです。親がSNSに対して対抗がある場合、SNSの危険性が分からない、もしくは、SNSの危険に遭っていることが多いと思われます。そこで、親はルールを設けたり、投稿の確認をすることで子どもが危険におかされていかないか、また、問題的な投稿をしていかないかを知ることができません。しかし、SNSに慣れている親などは子どものSNSの利用を自由にすることが多いと感じられます。SNSのルールや確認がないとSNS上での非行や犯罪だけでなく、SNS上で知り合った人と実際に会って犯罪に巻き込まれることなどが起こると考えられます。このような被害に子どもが巻き込まれないためには、SNSの制限やルールを家庭内で定めることが必要だと私は考えました。

三つ目は日本全体のルールについてです。今、日本の法はSNSに対応しきれているとは到底いえません。SNSに対する法が制定されていないことがSNS上での犯罪、特に誹謗中傷が減少傾向にないこととつながってくると思います。これには、政府が動き、明確な法を制定することが必要不可欠です。「そんなの政治

家しかできない」「自分たちには何もできないから関係ない」このような意見が挙げられるかもしれません。ですが、十八歳以上の方々には選挙権があります。選挙を通して政治に参加することができます。

今回、私は改めて「社会を明るくする」「犯罪・非行のない地域社会づくり」について考えを深めることができました。そこから、まずは自分たち一人一人が動いていかなければならないことに基づきました。犯罪や非行に対処する警察関係の方々はもちろんですが、国民主権の国、日本に住んでいる全ての人がこの問題を他人事とするのではなく、今、自分に何ができるのかを考えるべきだと思えます。家族や友達、身の周りの人々の手助けからでも、一つずつ自分たちにできることをしてもらおうことで、少しずつで犯罪や非行が減る世の中になり、社会が明るくなってほしいです。

